

ほっかいどう

広報紙

その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

年5回発行
5・7・9・11・2月の下旬



当てよう！
道産品！
裏表紙をチェック！>>>>

2017年
12月号
平成29年11月発行
通巻223号

【特集】進めよう！世界が憧れる観光地づくり

世界の人々に選ばれる北海道へ。 地域の連携と人づくりで 質の高い観光地づくりを進めます。

海外から北海道を訪れる観光客の皆さんに
「また来たい」と思ってもらえるような環境づくりを。
道はいま、インバウンド*の加速化に取り組んでいます。
*インバウンドとは、訪日外国人旅行のこと。



北海道の強みを活かし、
観光を成長産業として
発展させていきます。

北海道知事

北のゆりか



海外からの観光客の増加を 北海道発展の追い風に

近年、経済成長を続けるアジア地域を中心に、日本を訪れる外国人観光客は飛躍的に増加し、その数は、平成28年度に2,000万人の大台を突破しました。さらに今後も、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、右肩上がりの伸びが予想されています。

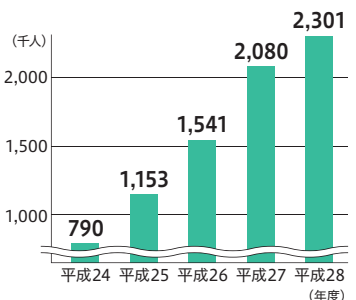
こうした社会経済情勢を受け、国は2020年の訪日外国人旅行者数の目標値を2,000万人から4,000万人へと大幅に引き上げました。

北海道でも、北海道新幹線の開業や国際航空路線の拡大などを受け、平成28年度の外国人来道者数は230万人を超え、過去最多を更新しました。

このような中、道はことし2月、「北海道インバウンド加速化プロジェクト」を策定しました。これは「2020年度の外国人来道者数500万人」という目標を掲げ、オール北海道でインバウンドの加速化を図るプロジェクトです。

今後も拡大が予想される海外からの観光客を地域経済活性化の大きなチャンスととらえ、「稼ぐ観光」という意識を全道に浸透させていくとともに、国際的に質や満足度の高い観光地づくりを進めています。

■訪日外国人来道者数推移



▶特集に関するお問い合わせ 道庁観光局 ☎(011)204-5305

世界中から目的地として選ばれる観光地に

道が目指しているのは、単に外国人来道者数500万人という数値目標の達成だけではありません。観光客の皆さんが安全・安心で快適に旅行を楽しみ、北海道の観光に満足し、何度も訪れたいと思えるような“質”の向上を目指しています。

そのために道は、北海道の多様な魅力を生かしたテーマ性・ストーリー性のある周遊ルートづくりのほか、通訳案内士や宿泊施設の従業員などを対象とした研修をはじめとする観光人材の育成、ホームページやパンフレットの多言語化、交通ネットワークの整備・充実などの取り組みを進めています。

また、国別や富裕層などターゲットを明確にした誘客により、季節・地域による外国人来道者数の偏りを解消していくため、国と連携して、「ひがし北海道」と「きた北海道」を対象地域とした、広域観光周遊ルートの形成に向けた各種取り組みなどを進めています。

北海道を訪れる海外からの観光客の皆さんにとって、地域の人々とのふれあいは何よりの旅の思い出になります。道民の皆さんも、おもてなしの心で親しみを持って温かく、観光客の皆さんを迎えていただくよう、ご協力をお願いします。

■「ひがし北海道」周遊バスルート



※写真はイメージです。

「2017年エクセレンス認証」※認定施設数が多い都道府県トップ5

1位	東京都
2位	京都府
3位	北海道
4位	沖縄県
5位	大阪府

※世界的な旅行サイト「トリップアドバイザー」が、優れたサービスを提供する施設に与える世界指標の認証。

クイズ! 北海道の日

「北方領土の日」は、
2月何日?



北方領土イメージキャラクターエリカちゃん

答えは中面下に▶

【特集】進めよう！
世界が憧れる観光地づくり

おもてなしと笑顔で世界が憧れる観光地を目指しましょう。

北海道インバウンド加速化プロジェクトに基づく、国際的に質の高い観光地づくりや人づくりなど、道内各地で進められている取り組みを紹介します。
▶道庁観光局 ☎(011)204-5305

地域の連携で観光地づくりを加速化

●インバウンド対応観光ルート創出事業

北海道を訪れる海外からの観光客の目的地は、札幌を中心とする道央圏や函館、旭川など一部の地域に偏りがちです。また、訪れる時期も、花鑑賞やスキー、流水観光を目的とする夏・冬に集中しています。そこで、道や北海道観光振興機構※では、地域が連携してそれぞれの特長や潜在力を生かし、海外からの観光客に満足してもらえる環境を整備しようと「インバウンド対応観光ルート創出事業」に取り組んでいます。

これは、複数の自治体で構成する協議会が、地域の実情や課題に応じて取り組む観光ルートづくりを道が支援するものです。今年度は、10地域がこの事業を実施し、観光客の目線で新たなモデルコースづくりやPRツールの制作などに取り組んでいます。

※北海道の観光戦略の企画・推進や観光プロモーションなどを行う公益社団法人



留萌の魅力がたっぷり！「海のプログラム」がおすすめです。



国が形成を進める「きた北海道」を対象地域とした広域観光周遊ルートの一つとして、留萌地域でもインバウンド対応の取り組みを始めています。管内には年間約140万人の観光客が訪れますが、これまでは通過型観光で海外からのお客さまはほとんどいなかったため、何から着手していか当初は手探り状態でした。管内8町村で真剣に協議を重ね、見つけた答えは「インバウンドは受け身ではだめだ」ということ。札幌・旭川を発着地としつつ、「日帰りでも留萌地域に行きたい」と思ってもらえるモデルコースを設定して、パンフレットを作成。今年度は体験プログラムを開発し、PR活動を進めています。その代表格が「海のプログラム」。前浜で獲れた魚介類を肉と一緒に炭火で焼いて味わう食文化「すし焼き」のほか、海辺のキャンプ、釣りなど、留萌ならではの体験が人気です。



海外からの観光客に好評のすし焼き体験

また、日帰り1泊2日のツアーとして商品化を目指し、体験メニューの磨き上げを行っているのが、市内7店舗で職人に教わる「すし握り体験」と、海辺の寺での「坐禅体験」。シャイで無骨だけれど実は面倒見の良い留萌人気質も、この地域の魅力だと思っています。海外からのお客さまのお越しをぜひお待ちしております。

観光を支える人づくりを加速化

●実践的インバウンドおもてなし人材育成事業

海外からのお客さまに「北海道に来て良かった」と旅の満足度を高めてもらうには、観光案内や接客などに携わる方々のおもてなし力が求められます。

観光客への対応を円滑に行うために道が進めている「実践的インバウンドおもてなし人材育成事業」は、専門知識と技能を持つ通訳案内士の育成研修や、観光産業に携わる人たちの実践研修など、現場に役立つ内容です。

受講者は、海外からの観光客にとって北海道の魅力とは何か、飲食や買い物などの際にご注文や手助けが必要かなど、日本人観光客への接客とは異なる視点で対応方法を学んでいます。



心の通う観光案内で、地域と人の魅力を伝えたい。



通訳案内士の資格を取得したのは13年前。海外からの観光客に同行するガイドとして道内外で活動しているほか、道が主催する通訳案内士の育成研修を担当しています。ガイドとして心がけているのは「関わりを提供する」ということ。雄大な風景と歩いて楽しめる小さな風景の組み合わせや、農漁村プログラムを通して人と産業の関わり方の体験など、五感で楽しめてストーリー性のある過ごし方をお客さまに合わせて提供しています。

訪問地での買い物も、大事な楽しみの一つ。「好き嫌いの分かれる海産物を観光客に売りつけるのは申し訳ない」などと思わず、おいしい食べ方をレシピにしてみたいですね。

片言の英語でも伝えようとする気持ちが観光客にはうれしいのです。そして、喜ぶ姿を見て、地元の人たちも元気になる。そんな心の通い合いが旅の醍醐味です。

その意味で、通訳案内士は地域と人を結び仕事。道内各地の魅力を伝えられるおもてなし人材が増えてほしいと願っています。



海外からの観光客を案内する通訳士さん

教育 旅行を次世代の力に

●訪日教育旅行の受け入れ・海外教育旅行への支援

訪日教育旅行は、海外の学校の生徒が日本に修学旅行などで訪れることです。道では、両国の生徒同士の交流を通して日本への理解を深めてもらうため、受け入れの支援を行っています。

訪日教育旅行の受け入れを進めることは、若いうちに日本の魅力に触れてもらい、その後何度も日本を訪れる「北海道ファン」を育てることもつながります。また、北海道の生徒にとっても、海外に興味を持つきっかけになります。現在は、台湾からの訪日教育旅行が多く、道内の高校などが受け入れに協力しながら、身近な海外経験の場としてこの機会を活用しています。



ハワイを訪れた道内高校の生徒たち

このほか、道も参加する北海道海外旅行促進事業実行委員会では、旅行代金やパスポート取得といった海外渡航費の一部を助成するなど、道内の中学・高校等が実施する海外教育旅行への支援も行っています。

生徒の身近な海外経験の場。自らおもてなしを実践しています。



本校は、訪日教育旅行の受け入れを始めて4年目。文部科学省の指定するスーパーグローバルハイスクールとして国際的に活躍する人材の育成に力を入れていることから、海外の高校を年に1、2校受け入れ、日本文化の体験と交流活動の場を提供しています。

交流活動はすべて英語ですが、回を重ねるうちに、自分から声をかけるなど積極性が増し、互いの国の文化についての発見も多くなったようです。

また、「どのようにお迎えしたら喜んでもらえるか」「親近感の湧く交流のしかたはないか」などを生徒が自ら考え、実践するようになりました。浴衣の試着体験や少人数でのグループディスカッションもその一つです。

訪日教育旅行の受け入れは、一度に多くの生徒が異文化体験をできる貴重な機会。今後も続けていこうと考えています。



浴衣の試着体験をした台湾の生徒たち

世界へ発信！ 北海道

道の取り組みを紹介します。

道では、北海道が将来にわたり発展を続けていくため、「世界の中の北海道」という視点で、経済・人材・文化などさまざまな分野の交流拡大や道内企業の進出を支援するため、サポート体制の整備も進めています。



ベトナム計画投資省との覚書締結

●道の海外ネットワーク

シンガポール、上海・北京（中国）、ウジノサハリンスク（ロシア）、ソウル（韓国）に拠点を設置しているほか、北海道とゆかりがあり世界で活躍する方を「国際ビジネス協力員」に任命し、現地の市場動向などの情報をいただいています。また、海外において情報発信に協力いただける企業を「スマイルステーション」、個人を「スマイルアンバサダー」として登録・任命しています。



ハワイでのプロモーション

ベトナムへ発信！

8月に北海道の訪問団がベトナムを訪問し、ベトナム計画投資省と経済交流に関する覚書を締結。現地航空会社



お知らせ！ 赤れんが

お問い合わせは
▶マークの窓口、またはホームページへ。

犯罪の被害に遭った方への支援について

犯罪被害者の方々には、直接的なダメージだけでなく、被害後にも生じるさまざまな問題に苦しめられています。

警察では、事件や事故の被害に遭われた方の相談や家庭内暴力、スローカーなどに悩んでいる方の相談も受け付けています。警察相談窓口のほかにも、心の傷が癒やされずに悩んでいる方のために、民間被害者相談窓口のカウンセラーが話をお聞きします。勇気を出してご相談ください。

【警察相談電話】
●被害者相談
性犯罪相談110番 #8103
少年相談110番 ☎0120-677-110
●一般相談 #9110

【民間被害者相談電話】
北海道被害者相談室 ☎(011)232-8740
性暴力被害者支援センター北海道 (SACRACH) ☎050-3786-0799

被害者のご遺族や、障がいが残った被害者の方に国が給付金を支給する「犯罪被害給付制度」があります。詳しくは道警本部またはお近くの警察署にお問い合わせください。
▶道警本部警務課 ☎(011)251-0110

必ずチェック、最低賃金！ 使用者も、労働者も

臨時、パートタイマー、アルバイトなど、働き方の違いにかかわらず、すべての労働者に適用される北海道最低賃金が10月1日から改定されました。

時間額 810円

詳しくはホームページをご覧ください。

▶道庁働き方改革推進室 ☎(011)204-5354

早寝早起き朝ごはん フォーラム in ほっかいどう

乳幼児期からの生活習慣の重要性をテーマとした講演や、地域での取り組みの発表を行います。また、ものづくりや絵本の読み聞かせ、木を使ったおもちゃ遊びなどの体験コーナーも設け、親子で楽しめます。保護者や学校関係者、団体など、どなたでも参加でき、入場は無料です。お申し込みをお待ちしています。

◎日時/12月16日(土)13～17時
◎会場/北海道大学 学術交流会館 (札幌市北区北8西5)

◎申込締切/12月6日(水)
▶道庁子ども子育て支援課 ☎(011)206-6328

〒060-8544(住所不要)
北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課
FAX (011)232-2236
メール kyoiku.seigaku2@pref.hokkaido.lg.jp

◎申込締切/11月29日(水)必着
早寝早起き朝ごはん 北海道 検索
▶教育庁生涯学習課 ☎(011)204-5744

フォーラム参加者募集 「子どもの貧困を考える」

国の調査では、7人に1人の子どもが貧困にあるといわれ、道が実施した調査では、家庭の経済状況などが子どもの日常生活や進学希望に影響していることなどが明らかになりました。

フォーラムでは、この調査結果を紹介するほか、今後の支援や地域の取り組みなどについてパネルディスカッションを行います。子どもの貧困を身近な問題として理解を深め、一緒に考えましょう。詳しくはお問い合わせください。

◎日時/12月16日(土)13～16時
◎会場/北海道大学 学術交流会館 (札幌市北区北8西5)

◎申込締切/12月6日(水)
▶道庁子ども子育て支援課 ☎(011)206-6328

ご存じですか？ 「無期転換ルール」

平成25年4月1日以降に有期労働契約が繰り返し更新されて通算5年を超えたとき、労働者の申し込みにより、期間の定めのない労働契約(無期労働契約)に転換できる制度です。詳しくは、「有期契約労働者の無期転換ポータルサイト」をご覧ください。

【相談窓口】 厚生労働省北海道労働局 雇用環境・均等部指導課 ☎(011)709-2715
▶道庁働き方改革推進室 ☎(011)204-5354

寄附禁止のルールを守ろう

政治家が選挙区内の人にお金を物を贈ることや、有権者が政治家に寄附を求めることは公職選挙法で禁止されています。贈らぬ・求めぬ・受け取らぬの「三ない運動」で、明るい選挙を実現しましょう。

【禁止の対象】
●お歳暮・お中元 ●入学祝い・卒業祝い
●落成式・開店祝いなどの花輪
●病気見舞い ●葬儀の花輪・供花
●お祭りや集会などへの差し入れ
●秘書などが代理で出席する場合の結婚祝い・葬儀の香典 など

▶北海道選挙管理委員会事務局 ☎(011)204-5153

環境学習の講師を派遣します 「eco-アカデミア」

道では、町内会やPTA、学校などが開催する環境学習講座に、各分野で活躍する講師を派遣しています。講師への謝礼金と旅費は道が負担します。

●参加者40人以上、2時間程度の講座で、誰でも参加できることが原則です(幼稚園、学校などが開催する場合を除く)。
●宗教・政治・営利活動が目的の場合は対象外です。
●講座内容やその他の注意事項は、ホームページをご覧ください。

道のホームページから申請書入手して希望講座を選び、開催日1か月前までに必要書類を提出してお申し込みください。ご利用をお待ちしています。
eco アカデミア 検索
▶道庁環境政策課 ☎(011)204-5188

報道議会

！ 定例会の概要をお伝えします。

平成29年第3回定例会(9/12～10/6)

■定例会の概要

知事から提出された予算案6件(一般会計99億8,300万円、特別会計2億700万円)と条例案6件、その他の案件21件が原案可決、人事案件3件が同意議決、諮問1件が棄却すべき旨答申され、決算案件4件は、継続審査となりました。また、議員及び委員会から提出された決議案1件、意見案3件が原案可決されました。

本会議では、行政事務全般にわたり、知事などに対し、執行状況や将来の方針などについて、各会派から1人ずつ計5人の議員が代表質問を行いました。また、医療・福祉政策(農福連携、離島医療の充実など)、1次産業の振興(農畜産物の輸出拡大、漁業振興など)、地域振興(地方活性化、過疎地対策など)、アイヌ政策(民族共生象徴空間、アイヌの遺骨返還など)、災害対策など道政が直面する諸課題について、22人の議員が一般質問を行いました。

予算特別委員会からは、北朝鮮によるミサイル発射、北方領土問題、JRの路線見直し、災害の早期復旧及び自然災害による被害の未然防止、JXTGエネルギー(株)に關製造所の再編について意見が付けられました。

～次回定例会のお知らせ～
平成29年第4回定例会は、11月下旬に開会の予定です。最新情報は、ホームページや北海道議会ツイッター(@hokkaidogikai)などをご覧ください。
▶議会事務局政策調査課 ☎(011)204-5691

●条例案 6件

「北海道立学校条例の一部を改正する条例案」など

●決議案 1件

「朝鮮民主主義人民共和国のミサイル発射及び核実験に抗議する決議」

●意見案 3件

「国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書」など

■第42回北海道議会議場コンサート



第3回定例会の初日に議場コンサートを開催しました。当日は、アイヌ文化公演としてムックリ演奏やユカ、古式舞踊が披露されました。コンサートの模様は「北海道庁インターネット放送局 Hokkaido-TV」で公開しています。

～ホームページをご覧ください～
道議会ホームページでは、議会中継・録画、議会の日程、傍聴・見学のご案内などをご覧ください。

なお、質問などの詳細は、市町村役場等に配布している冊子「北海道議会時報」でもご覧いただけます。
北海道議会 検索

～次回定例会のお知らせ～
平成29年第4回定例会は、11月下旬に開会の予定です。最新情報は、ホームページや北海道議会ツイッター(@hokkaidogikai)などをご覧ください。
▶議会事務局政策調査課 ☎(011)204-5691

渡島総合振興局
統一名称「函館真昆布」で
知名度アップ

漁業が基幹産業のひとつである函館市では、スルメイカと並んで昆布が漁業生産額の3割を占め、北海道一の生産量※を誇っています。

函館産のマコンブは、「白口浜」「黒口浜」「本場折浜」の3銘柄があり、古くからそれぞれの漁業者が自信と誇りをもって生産してきました。

しかし、一般消費者にあまり名前が知られていないことから、「函館」のブランド力と結びつけようと、ことし9月、名称を「函館真昆布」に統一しました。函館市内5つの漁協と市が一丸となってPRに取り組んでいきます。

※出典：2015年 北海道水産現勢

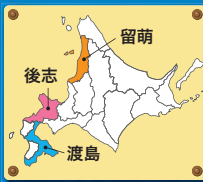


マコンブ漁の様子と商品

▶水産課 ☎(0138)47-9481
▶函館市農林水産部企画調整課 ☎(0138)21-3349

注目! 地域から

振興局の話題をお届けします。



後志総合振興局

地域内連携で、国際リゾートのさらなる発展を

後志地域では、パウダースノーを求めて、ニセコをはじめとする大型リゾートへ多くの外国人旅行者が訪れており、宿泊施設の建設ラッシュが続く一方で、これらの産業を支える人手と住宅不足が課題となっています。

後志総合振興局では、リゾート各社、JA、商工団体、各市町村などと連携して、地域の仕事と住まいをセットで紹介する「マッチングプラン無料職業紹介所」や、空き家の情報を提供する「しりべし空き家BANK」を運営。また、学生など若者にリゾートの仕事や国際コミュニケーションを体験してもらう「ShiriBeshi留学」など、地域の課題を解決し、国際リゾートを軸にさらなる発展を目指す取り組みを進めています。詳しくは振興局のホームページをご覧ください。



地域の仕事を紹介するジョブフェア(上)
管内を訪れた外国人観光客(下)

▶商工労働観光課 ☎(0136)23-1362

留萌振興局

**「冬のるもい大物産展!」を
チ・カ・ホで開催**

留萌振興局では、地域の魅力を伝え、多くの方に訪れてもらうため、食と観光のPRに取り組んでいます。

その一環として、管内市町村や観光団体と協力し、数の子、甘エビ、タコなどの水産加工品やもち米、地酒などの特産品の販売、観光パンフレットの配布、ご当地キャラクターや各市町村有志によるステージイベントなどを札幌市で開催します。

お正月の準備にもぴったりな、るもいの「うまい!」が盛りだくさんです。ぜひお越しください。



昨年開催の大物産展(上・下)

◎日時/12月14日(木) 11~19時
15日(金) 11~17時

◎場所/札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)
北3条交差点広場(西)

※開催時間は変更になる場合があります

▶商工労働観光課 ☎(0164)42-8441



2018年は北海道150年

北海道
150年

なるほど! 知るほど! 物語

北海道ならではの食の由来や知られざる歴史を紹介します。

道内初の木彫り熊は、八雲の農民から生まれた/八雲町

北海道土産として有名な「木彫り熊」は、尾張徳川家の旧藩士らが開拓した八雲町が発祥の地です。八雲の農場主・徳川義親が、1922(大正11)年、旅先のスイスから木彫り熊を持ち帰り、翌年に生活向上のための冬季の副業として農民に民芸品づくりを勧めました。その次の年、八雲で開かれた第1回農村美術工芸品評会に農民が作った北海道第1号の木彫り熊が出品されました。

八雲の木彫り熊は農場で飼育していた熊がモデルのため、人懐っこい表情が多いのが特徴。そのため、野性的な作品は少なく、定番ともいえる「鮭をくわえた熊」は、昭和初期に木彫り熊制作を始めた旭川のアイヌの人たちが作ったといわれています。

八雲の木彫り熊はさまざまな展覧会で賞を取り、全国的に販売されるようになります。第2次世界大戦が始まると需要は激減しますが、戦時中も彫り続けた人々によって伝統は守られ、今日に受け継がれています。

「八雲町木彫り熊資料館」には、第1号の木彫り熊をはじめ、個性豊かな歴代の作品が約200点展示されています。

▶お問い合わせ 八雲町木彫り熊資料館 ☎(0137)63-3131



北海道第1号の木彫り熊

当てよう! 道産品

抽選で
30名様

夕張メロンの完熟果肉を贅沢に使用した(株)ホリの「夕張メロンピュアゼリー」(15個入)をプレゼント!

次のアンケートに答えて道産品を当てよう!

12月号の中で最も興味を持ったのは、どの記事ですか

- ① 特集(進めよう! 世界が憧れる観光地づくり)
- ② 世界へ発信! 北海道
- ③ お知らせ! 赤れんが
- ④ 報告! 道議会
- ⑤ 注目! 地域から
- ⑥ なるほど! 知るほど! 物語



●当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

●応募方法: アンケートの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、ハガキ、パソコンまたは携帯サイトでご応募ください。

●応募期限: 12月25日(月)必着
応募いただいた方の個人情報、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。

●応募先: ハガキ 〒060-8588(住所不要)
北海道広報広聴課「当てよう! 道産品」係

パソコン 広報紙ほっかいどう 検索

●掲載記事の関連ページ、広報紙アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧も上記からアクセスできます。 ※10月号のプレゼントには、5,537件の応募をいただきました。

携帯サイト



北海道の人口	総人口	男	女
平成29年9月末	5,345,652人	2,525,147人	2,820,505人
前年同月比	31,783減	15,088減	16,695減

※人口は毎月公表される統計資料に基づき直近のデータを掲載しています。

次号のお知らせ

3月号は平成30年2月21日(水)に配布開始の予定です。



みんなの文字

この広報紙は環境に優しい植物性インキを使用しています。本文には見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

広告